

参考4. パブリックコメント意見

分類	都民からのご意見	意見に対する見解
全般	<p>家の近くの神田川では以前はよく溢れていた記憶がありますが、最近はあまり見られなくなりました。この報告にもあるように、これまでの長い取組の結果なのかもしれません。</p> <p>今年の長く暑い夏のように、気候の変化を感じる事が多くなり、確かにこうした備えをすることは大事だと思います。</p>	<p>気候変動の影響は顕在化しており、世界平均気温は 2050 年頃までには約 1.5~2°C 上昇するとされ、降雨量の増加、台風の強大化等が想定されています。</p> <p>今回の改定は、こうした気候変動により激甚化・頻発化する豪雨対策についての基本的な考え方をとりまとめたものです。本方針に基づき、豪雨対策を強化・加速していきます。</p>
全般	<p>気候変動が進むと、水害が起きるか心配です。</p>	<p>気候変動に伴い、関東地方における降雨量は 1.1 倍になると試算されています。豪雨災害のリスク増加に対応するため、都内全域で目標降雨を 10 ミリ引き上げて、対策に取り組み、浸水被害を防ぎます。</p> <p>また、目標を超える降雨に対しても、生命の安全、減災及び早期復旧・復興に重要な機能の確保に向けて取り組んでいきます。</p>
全般	<p>豪雨対策が皆に知られることが必要だと思います。</p>	<p>豪雨対策を含めた災害対策の重要性について、自分ごと化を図るための PR（広報）、防災教育等を行い、豪雨対策の必要性や地域における対策のあり方を知り、伝え、行動できる応援団を育成し、地域や企業等に根付く持続発展的な取組へと繋げていきます。</p>
全般	<p>P 7 折れ線と右肩上がりの線は何を指すのかわからない。</p> <p>P 9 区部と多摩部の境目が区市の境目と一致しないように見える。(ほかのページを見て気付いたが、P44 図 3-8 や P45 図 3-10 の地図と異なっている。)</p> <p>P 25 現状約 432 万 m³ の実績はいつか。なお P17 河川と整備と P20 下水道整備は令和 4 年度と書いてあった。</p> <p>P 34 四角で囲まれた中の目標降雨まで浸水被害を防止は、床上浸水をいうのか床下浸水をいうのか。</p> <p>P 38 図 3-1 役割分担とあるが、3つの割合(数字)が書いていないので、何をどれくらい分担するのかわからない。</p> <p>P 39P1 や p6 などでは「5つの施策」とあるが、図 3-2 では4つの施策項目となっている。どちらが正しいのか。</p> <p>P 49 と P 54 記載が違う理由はあるか。P49 の図 4-1 では河川整備は気候変動を考慮した目標設定であることがわかったが、P54 では下水道整備は気候変動を考慮していない目標設定であるのか。</p> <p>P 63 図 4-22 の中では屋上緑化とあるが、P 25 図 2-20 にはなく屋上貯留とあるので「屋上貯留」ではないか</p> <p>P 64 東京都の水の有効利用促進要綱は対象区域が東京都全域とあるので、雨水タンクの設置で地下水位がどうこうは関係なく広げたらよいのではないか。P76 にもあなたがとりくんではほしいことに記載がある。</p> <p>P 66 ここに載っていたので今回初めて東京都地下空間浸水対策ガイドラインを見た。「地下空間」とあったので東京駅や新宿駅などの地下街や地下鉄のことかとおもったら個人の半地下の家の対策もあった。このガイドライン</p>	<p>ご意見を参考に各ページの記載を見直しました。</p> <p>なお、本方針の目標設定、取組は、気候変動への対応を考慮したものです。</p> <p>また、流域対策のひとつに、建物の屋上に雨水を一時的に貯留する屋上貯留があります。屋上貯留の手法には様々なものがあり、吸水性の高い材料を設置したり、屋上緑化などと組み合わせて下水道への負荷を軽減したりすることが考えられます。</p>

分類	都民からのご意見	意見に対する見解
	<p>の名称だと個人は見ないと思う。名称を少し変えてみたらどうか。</p> <p>P69 ここでグリーンインフラという言葉を知ったので検索したところ、国土交通省のグリーンインフラ実践ガイド（2023年10月）がヒットした。そこには雨水の貯留浸透とかかわりがあるようなことが書いてあった。そうすると「もしもの備え」の範疇ではないように感じた。また雨水流出抑制に資するとP69にもあったので、雨水の流出を抑える対策ではと感じた。</p> <p>全体的に「流域治水」「総合治水」「豪雨対策」と似たような言葉があったが、違いはあるのか。</p> <p>P75 以前ポストに東京防災の冊子が入っていた。その中にあったマイタイムラインは家族内で風水害の時の避難ルールを決められるようになっていた。親戚が江戸川区に住んでいるが、荒川などが決壊したらひとたまりもなく、あとは命さえ助かれば良い状態となると思う。東京都地下空間浸水対策ガイドラインを載せるなら、ここに東京マイタイムラインも載せたほうが「もしもの備え」として良いのではないか。</p>	<p>(前頁に見解記載)</p>
全般	<p>わたしは杉並区に住んでおります。</p> <p>東京都の豪雨対策については、近隣でも氾濫するなど大変深刻であると思います。</p> <p>近隣では、当初数年予定だったが河川工事は、もう8年以上の工事をしており、この工事が終わらないまま、次の工事を始めるとのことです。</p> <p>その工事は当初から貯水が足りないなどの声もあったようですが、強行して進めた挙句、また再度の工事。そしてそのことは近隣住民には知らされないまま、また新たな工事が始まろうとしています。</p> <p>そんなことに多くの税金を投入して、近隣住民の生活を壊し、環境を破壊して、やることではないと思います。</p> <p>きちんとした調査、周知、理解がなされてから行ってください。</p> <p>わたしはたまたまこの近隣の「東京都市計画河川第8号善福寺川の都市計画変更素案」を耳にしました。住民に説明なくして、進めてはなりません。</p> <p>豪雨対策は必要です！</p> <p>ですが、それは住民の生活のためにすることであって、一部の住民の生活を脅かし、苦しませながら進めることではないと思います。</p> <p>どうか、今一度この杉並区の公園を守り、我々の生活を脅かすようなこの工事をおやめ下さい。</p> <p>よろしくお願いいたします！本当に困っております。</p>	<p>本方針は、豪雨による水害に対する、自助・共助・公助を合わせた総合的な治水対策の基本的な考え方を示すものです。</p> <p>今後の気候変動に伴い、世界平均気温が2℃上昇した場合、関東地方における降雨量は1.1倍になると試算されています。気候変動の予測は決定論的なものではなく不確実性が伴うことから、目標を超える降雨にも備えることが必要です。都では5つの施策（「河川整備」「下水道整備」「流域対策」「家づくり・まちづくり対策」「避難方策」）を組み合わせ対応していきます。対策効果の早期発現のため、浸水被害のリスクが高いエリアの対策を重点化し、段階的に都内全域へ事業展開していきます。</p>
具体的な取組	<p>基本方針の見直しは状況的には致し方ないと思いますが、いつまで追いかけっこをするのかが気になります。</p> <p>また、地下鉄や地下道、地下街などについて、タイでの洪水のように長期に渡っての冠水が生じた場合の想定ができていないのではと思います。</p> <p>地下鉄等について、具体的には水を食い止めるしか考慮していませんが、考え方を変えれば、水を貯められる地下河川としての活用も可能でしょう。</p> <p>長期に渡って地上部も冠水する状況ならば、地下鉄や地下街を守る必要性よりも、少しでも水を貯留して地上を</p>	<p>目標を超える降雨により、想定される水害リスクが増大する可能性があることから、もしもの備えとして、生命の安全、財産への被害軽減、社会経済活動の早期復旧・復興を目標に取組を推進していく必要があります。</p> <p>「家づくり・まちづくり」「避難方策」を中心とした施策により、リスクの軽減や許容することも含めて目標を超える降雨に対して備えていきます。</p>

分類	都民からのご意見	意見に対する見解
	<p>早く開放することも考える必要があるのではないのでしょうか。そのイザという時のために、ある程度水を流しても復旧がしやすいような設備に変更するとか、いつ誰がその判断をするのか等について、今から検討して投資をできないのでしょうか。特に地下鉄はネットワークが完成しているといえるレベルです。ある程度までは水の侵入を防止するにしても、現時点で想定外の水害が発生した場合のことを考慮し、新たな施設ばかりを作るのではなく、既存インフラを活用した地上部の長期冠水被害の抑制につなげることも検討して下さい。</p>	<p>(前頁に見解記載)</p>
<p>具体的な取組</p>	<p>災害の脅威は増してきて、東日本大地震や鬼怒川水害など、近年でも目を覆いたくなるような災害が絶えません。こうした災害を見ていると、多くの方が被害に遭われている一方で、そもそも災害が起きやすい場所に住んでしまっていることが、被害をより大きくしてしまっているようにも思えます。</p> <p>これから東京も人口が減っていく予測も示されています。今は川沿いにあまり空間がなくても、人口減少の中で、時間をかけて空間をつくることもできると思います。そういった土地の利用方法については、これからゆっくりと進んでいく気候変動への対応として考えていく必要があるのではないのでしょうか。今回の方針を見ると、まちづくり対策の中でも触れられていないように見受けられます。</p>	<p>気候変動を踏まえた豪雨災害に対して強靱で持続可能な都市を実現するために、水害に強いまちづくりを推進していきます。</p> <p>例えば、浸水区域図やハザードマップによる都民や企業による自発的な建物の浸水対策強化の促進や、大規模水害時における避難場所や活動拠点となる高台整備等を進めていきます。</p>
<p>具体的な取組</p>	<p>雨の降ったあとの水のおいも気になります。川の環境を良くするためにも、合流式下水道というものを部分的にでも改善する、雨水を下水に入れないで川に流す、といった対策を進めていただきたいです。</p>	<p>合流式下水道の改善について、現在、下水道法施行令の雨天時放流水質基準が令和6年度から強化されることに伴い、降雨初期の特に汚れた下水を貯留する施設の整備など、雨天時に河川や海などに放流される汚濁負荷量を削減する取組を進めています。これにより、下水道法施行令で定められた分流区域下水道並みの基準を達成した放流水質が確保されます。引き続き、貯留施設の整備とあわせて、関係区などと連携し、公共施設や再開発地区などでの部分分流化を推進するなど、合流式下水道の改善に取り組みます。</p>
<p>具体的な取組</p>	<p>水害が起きたときの避難場所があると良いと思います。</p>	<p>水害に強い「家づくり・まちづくり対策」として、大規模水害時における避難場所や活動拠点となる高台整備を推進します。地元自治体と連携した公共施設を活用した緊急時の垂直避難先の確保や、避難経路の整備を進めていきます。</p>
<p>具体的な取組</p>	<p>雨水をもっと有効に使えると良いと思います。</p>	<p>雨水の流出を抑える「流域対策」において、雨水が活用できる雨水貯留施設（雨水タンク）の設置への補助行い、取組を促進しています。併せて、このような取組を広く知ってもらえるような広報も行っています。</p>
<p>具体的な取組</p>	<p>もっと緑地を増やす</p>	<p>自然環境が有する機能を社会課題の解決に活用するグリーンインフラの考え方とも整合する雨水流出抑制を促進します。例えば、都市開発においては、都市開発諸制度を活用し、雨水流出抑制に資するレインガーデン、緑地等の整備誘導を検討していきます。</p>

分類	都民からのご意見	意見に対する見解
<p>具体的な取組</p>	<p>私は杉並区に流れる善福寺川の近くで暮らしています。最近では治水対策が進んでいますが、気候変動やヒートアイランド現象の影響によりこれまでの方法が財源的にも生態系にとっても限界に直面していることを実感しています。特に、私たちの子供たちの未来にどのような街を残すべきかと考えると、今まで行われている河川工事や遊水池を作る方法が本当に良いのか、と心配してしまいます。</p> <p>東京都は流域全体にわたる対策として、グリーンインフラの導入を計画していますが、緑を増やすだけでは十分な「治水対策」にはならないと考えています。東京都は明確な目標を設定するべきだと思います。</p> <p>そのため、以下の提案をいくつかご紹介させていただきます。</p> <p>1) 制度による流域対策の義務化</p> <p>東京都は太陽光パネルの義務化を 2025 年に予定していますが、このような制度の流域対策版を創設するのはいかがでしょうか。</p> <p>第一の提案として、都市河川に流れ込む下水（汚水＋下水管に入る雨水の混合）を「公害」と規定し、その排水区域の区市町村に罰金や助成金の削減などの措置を設けることを提案します。この規制により、自治体は雨水を下水道に排水する前に適切に処理する必要があり、これによって水環境の改善と水害の軽減が期待されます。米国では、このような仕組みが Clean Water Act という連邦政府レベルの法律として採用されています。</p> <p>第二の提案として、雨税（Rain Tax）を導入することを考えます。これにより、私有地に雨水を浸透させる領域を設けることが義務付けられます。自身の敷地内で雨水を適切に処理できない場合、固定資産税に雨水料金が課される仕組みです。米国の一部の都市でこのようなアプローチが採用されており、具体例として、ロサンゼルス郡が 2019 年に導入した Clean Safe Water Program（通称 Rain Tax）では、非浸透面積 1 平方メートルあたり約 25 セントの雨水料金が課せられ、浸透能力の高いエリア（雨庭やバイオスウェール）や雨水タンクがある場合、雨水料金が免除されます。この制度により、資金が調達され、治水インフラの維持費や水害被害者支援に充てられています。</p> <p>第三の提案として、流域対策ファンドの設立を考えます。このファンドは、雨水を浸透させる雨庭などのプロジェクトを支援し、そのための財源を確保するために設けられます。</p> <p>2) 行政の横断的な組織の構築</p> <p>現行の流域対策の方針と考え方を高く評価していますが、現実的な実現が難しいと感じています。治水効果の 10% を達成するには、流域全体での総合的なアプローチが必要であり、横断的なタスクフォースの設立が望ましいと考えます。東京都内に、一時的に構築され、関連部署と連携しながら実施できる組織が存在すべきで、これによってこれまでの委員会制度よりも迅速な行動が可能となります。</p> <p>行政において迅速な対策の一つは、学校、児童館、公民</p>	<p>気候変動を踏まえた目標降雨に対し、河川整備、下水道整備、流域対策の主な施策で浸水被害を防止することとし、目標を超える降雨に対しても、家づくり・まちづくり対策、避難方策に取り組み、もしもの備えを進めます。</p> <p>流域対策については、公共、民間施設における雨水貯留・浸透施設設置への支援を充実し、あらゆる関係者の取組を促す広報の強化等を行い、対策を推進します。</p> <p>公共施設においては、都管理施設における貯留施設や浸透ます、透水性舗装等の設置を進めるとともに、区市町村や国の施設への設置を要請していきます。</p> <p>大規模民間施設においては、建築・開発行為等において適切に雨水貯留・浸透施設の設置を行うように要綱や条例等による制定・改正を区市町村に要請していきます。</p> <p>小規模民間施設においては、浸透ますの設置等について助成・補助を行うなど、地元自治体と一体となって支援を行ってまいります。</p> <p>また、自然環境が有する機能を社会課題の解決に活用するグリーンインフラの考え方もも整合する雨水流出抑制を促進し、公共施設や民間施設における導入を促すための制度や機運養成に向けた広報等の支援も強化していきます。</p> <p>こうした取組を進めていくためにも、防災教育、地域活動等を通じて豪雨対策の必要性、地域における対策のあり方を知り、伝え、行動できる「人づくり」を進めていくことが重要であり、あらゆる関係者による取組につなげていきます。</p> <p>いただいたご提案は庁内関係部署とも共有し、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>

分類	都民からのご意見	意見に対する見解
	<p>館、郵便局、図書館、体育館、保健所、警察署、会館、税務署、公園などの様々な公共施設および道路において雨水浸透装置や雨水貯留槽の設置を行うことです。また、ダムの洪水調節のように、雨水タンクなどでも予測降雨量により調節すると最大限に効果を発揮できます。しかし、縦割り行政の問題が流域対策の実施を妨げています。</p> <p>特に厄介なのは、建設局と下水道局の縦割り構造です。河川の治水は建設局の職務ですが、下水処理は下水道局の管轄となっており、問題の発生源がどちらに帰属するのかが明確でないことが問題です。私の住宅は善福寺川から約 100 メートル離れた高台に位置していますが、住宅の前の道路では時々内水氾濫が起きます。しかしこの問題が下水道局の管轄なのか建設局の管轄なのかは不明瞭です。</p> <p>さらに、豪雨対策に関して、東京都のアプローチが協調性に欠けているとの印象を受けます。建設局は「流域対策」という言葉を使用していますが、下水道局は「浸水対策」という言葉を用いています。東京都は「東京グリーンビズ」計画を進行中であり、その計画の一部としてグリーンインフラの推進が含まれています。しかし、残念ながらこの計画は治水や防災に対する具体的な効果については示されていません。欧米のグリーンインフラは、主に水害リスクの軽減や水質の改善を主要な目標としており、生物多様性や緑化と同じレベルの目標です。</p> <p>3)「豪雨対策」の新たな考え方</p> <p>従来の豪雨対策は、水を排水することが主要な目的です。つまり、どれだけの水を、どれだけ速く排水できるかが重視されてきました。そのために川の改修や巨大な貯水槽の建設などが行われてきました。</p> <p>しかし、水は捨てるべき資源ではなく、自然界の貴重な賜物であるとの視点を再考することが重要です。</p> <p>東京の都市環境には水の恩恵が求められています。特に夏の猛暑日において、水は自然の冷却剤として重要な役割を果たします。しかし、都市の地面はしばしば乾燥しています。公園内には雨水が汚染されていない水域を設けたり、封じられた小川を開削して子供たちが遊べる場所を創出するなど、水を活用した新たな環境づくりに取り組むことが価値ある提案です。これにより、市民は水の重要性を直接実感し、都市に潤いが戻るでしょう。</p> <p>以上です。どうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p>(前頁に見解記載)</p>
その他	<p>「ハッ場ダム」「保水力」等、、、 ※書面でご意見をいただきましたが、判読が困難なためキーワードのみ抜粋させていただきました。</p>	